巻頭 INTERVIEW

みんながHappyでいられるように

～アメリカと日本を結ぶ海外研修～

米国シアトルでクリニックを開業する傍ら、出身校のバスティア大学の准教授として教鞭をとり、インターン生の指導も行う高倉昌宏さん。「患者さんのためになることなら喜んで手助けしたい」をモットーに、情熱的かつひたむきに取り組んでいる。そんな熱い思いがより良い施術者を育てたいという気持ちに発展し、高倉さんが現地指導を担当する「人体解剖海外研修」という形で実を結んでいる。研修の参加者からは、期待をはるかに上回るとの評判が寄せられている。

Masahiro Takakura

高倉昌宏（たかくらまさひろ）

東京生まれ。バスティア大学准教授。自然医学医師。一般家庭医として、シアトルでクリニックを開業。医師免許に加え、鍼灸やカイロプラクティックの資格も持ち、「すべては患者さんのために」をモットーに地域医療に携わる。最近では、キネシオテーピング協会の理事として、世界各地でキネシオテープの普及活動も行っている。

人のためになることがしたい

―YMCメディカルトレーナーズスクール（以下YMC）が主催し、昨年7月・9月と既に2回開催されている「人体解剖海外研修」。その現地講師を務める高倉さんですが、普段はどのような活動をなさっているのでしょうか？

自然医学医師の免許を持ち、米国シアトルで一般家庭医として、地域医療に携わっています。また、出身校のバスティア大学では准教授として、講義をしたり、インターン生に指導をしたりもしています。

加えて、最近はキネシオテーピング協会の理事として、世界各地で*キネシオテープの普及活動も行っています。患者さんのためになることなら何でもやりますよ。

―医学のなかでも、特に自然医学を志したのはどのような理由なのでしょうか？

そもそも医学に興味をもったのは、ワシントン大学の学部生時代に、大学病院で理学療法に関わるボランティアをしたことがきっかけです。自分と関わった患者さんが喜ぶ姿をみて、とても嬉しく感じました。物理的なモノはいつか無くなってしまいますが、感謝や喜びなどの気持ちのやりとりは、心にずっと残りますよね。そういう、人に必要とされて喜ばれるような仕事をしたいなと思いました。

一方で、手術後のリハビリテーションをする患者さんと接するうちに、体の悪い部分を限定して、その悪い部分だけを取り除いたり、抹消したりする西洋医学的治療に疑問を感じていました。同時に〝薬に頼りきるのでなく、人間本来の治癒力を活かして治していく〟自然医学の治療方針や病気にならないような生活習慣を心掛ける〝予防医学〟の考え方に共感を覚えました。

バスティア大学は自然医学においては米国屈指の教育機関ですし、入試の際、テストの成績よりも受験者の人格を重視するという評価基準にも感銘を受け、進学を決意しました。

―医師、教師、理事として多彩な活動をされていますが、お仕事をするうえで心掛けていることを教えてください。

どんなお仕事でも、謙虚であることが大切だと思っています。何事も、相手あっての自分ですから。医師も、患者さんあっての存在ですよね。日々の診療の中で、私が患者さんから学ぶことが本当に多いので、常に患者さんに対して感謝の気持ちがあります。

また、医者といっても色々な形や立場があって、自分には自分の役割があると思います。私の場合は、地域の家庭医ですから、患者のみなさんは同じ地域の家族みたいなものです。家族の健康を守るため、感謝の気持ちと責任感を持って、患者さんの気持ちに寄り添う医療を心掛けています。

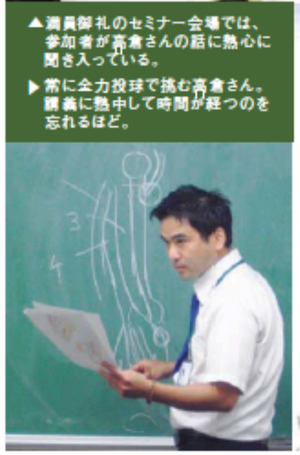
現地講師として貢献する

―「人体解剖海外研修」は、どのような経緯で実現に至ったのでしょうか？

現在、研修の現地担当をしてくださっているコーディネーターの方の紹介で、YMCの校長でIHTAの理事でもある田村義信さんと直接話をする機会をいただいたことがきっかけです。そのコーディネーターの方は、米国の良いものを取り入れて日本を良くしたいという情熱をもった方で、強く共感しました。田村さんには研修の趣旨や私の考えを伝え、YMCと目指す方向性が同じであるということから、海外研修が実現することになりました。

*キネシオテープ…施術前後、部位に貼ることで筋肉のハリを取ったり痛みを軽減したりするテープ。自然治癒力を高め回復を促進する自然療法の一つ。

巻頭 INTERVIEW Masahiro Takakura



▲満員御礼のセミナー会場では、参加者が高倉さんの話に熱心に聞き入っている。

▶常に全力投球で挑む高倉さん。講義に熱中して時間が経つのを忘れるほど。

何事も「質」にこだわりたい

―現地講師を引き受けたときの心境はどのようなものだったのでしょうか？

母国である日本に貢献できるということや、良い整体師を育てることが、ゆくゆくは患者さんのためになると嬉しい気持ちでした。

とにかく、自分も含め、治療家も患者さんも、日本の人も米国の人も、世界中の人みんながhappyでいられるよう、私ができることであれば何でも協力したいと思っています。

―研修のメインである人体解剖に焦点を当てた理由を教えてください。

人体を解剖する経験は、国家資格の有無に関わらず、整体師やマッサージ師も含めたすべての医療従事者に必要だと考えています。筋肉や骨格、内臓や神経など、体の中身を実際に見たことがある、触ったことがあるのとないのとでは、その後の治療や施術の方法、取り組み方が全く変わってきます。

残念ながら、日本では、人体解剖は医学部の学生しか経験できません。人体模型で代用している学校がほとんどです。一方、米国では医療を志す人なら誰でも、希望に応じて解剖の授業を履修することができるのです。

そのような事情から、日本でスキルアップしたいと考えている学生やカイロプラクティックや整体に関わる仕事をされている方々に、この業界発祥の地でもあり、医療の進んでいる米国での人体解剖研修を提案したのです。通常、一年かけて習得する人体解剖を3日間の短期間で行う盛りだくさんのプログラムになっています。

質にこだわった仕事をしていく

―既に開催された第1回、第2回を振り返って、いかがでしたか？

参加者の熱意と真面目さが印象的で、とてもやりがいがありましたね。受講生のやる気が伝わってくると、相乗効果でこちらも自然と気持ちが高まってきます。一日一日の内容がとても濃く、充実した研修となりました。

早朝の散策では、野草やハーブの観察をし、食事中も食事療法の話題があがり、講義が終わった後も希望する受講生には補習を行います。みなさん積極的に受けに来られました。

後日受講生と再会した時、「教わったあの技、使ってますよ！」「役に立っています」と言ってもらうことがあって、手ごたえを感じています。

―この人体解剖海外研修のプログラムの特徴と、今後の課題や取り入れていきたい内容を教えてください。

通常の海外研修では、たとえば1日目に「人体解剖」、2日目に「カイロ施術」というように、カリキュラム内容で日ごとに区切ることが多いのですが、私たちの研修は「体の部位」ごとに区切っています。1日目は「上肢・下肢」の人体解剖・カイロ施術・運動療法…、2日目は「背中・首」の…というように、体のその部位について徹底的に研修を行います。そうすることで、現場ですぐに役立つ知識や治療技術を身につけることが可能になるのです。実はこのような方法では、教室や人材の手配などで効率が良くないという面もあります。仮に「人体解剖」を1日で済ませてしまえば、「人体解剖」用の教室や人材は1日分のコストで済みます。ですが、やはり内容・質の面で受講生にとっての利点を重視してプログラムを組みたいという思いから、たとえ効率が悪かったとしても、このような形をとっているのです。

今後は、たとえば老人ホームやリハビリセンターなど、実際の治療施設での研修をプログラムに取り入れたいと考えています。受講生同士で施術をし合うのと、実際に痛みを感じている患者さんに施術をするのとでは明らかに違います。他には、ヨガやデトックス、オーガニック料理などについてもプログラムに取り入れていきたいと考えています。

―高倉さんご自身の今後の目標を教えてください。

困っている患者さんを一人でも多く助けられるよう、治療家の知識と技術の向上に貢献していくことです。そのために、質の良い治療、優秀な人材を育てるための質の良い講義・研修を追究し、質の「良いもの」を広げていきたいですね。あとは、謙虚であること、そして初心を忘れないということはこの先、何十年たっても忘れずにいたいと思っています。

―人体解剖海外研修へ今後の参加を検討している受講生にメッセージをお願いします。

私自身、100％以上のモチベーションで臨みたいと思っています。第1回・2回目は手探りの部分も多かったのですが、今後はよりクオリティの高い講義や研修を提供していくつもりです。悩んでいる人や迷っている人にとっては、きっと新しい世界を見つけることができるはずです。

私のように米国で医療を学んだ日本人や、現地の米国人から講義を受けるというのも独特で新鮮な体験だと思いますし、参加者の方にとって必ず何かのきっかけになるはずです。

第3回人体解剖海外研修
最終締切 2月6日(月)
お申し込みはIHTAまでお電話ください
社団法人 国際ホリスティックセラピー協会
TEL:03-6457-7287